

【静岡】藤枝市は6月下旬から、市内の下水処理施設を見学した小学生に、下水汚泥などをもとにした汚泥肥料を配布している。資源循環による持続可能な開発目標(SDGs)への取り組みを発信する狙いがある。

SDGsへの 取り組み発信

初日の25日には、藤枝市立瀬戸谷小学校の4年生10人が、地域にある市之瀬地区農業集落排水処理施設を訪れた。児童は、同市の職員から家庭から出た排水を浄化する仕組みについて聞き、その過程を学んだ。

児童には、同市浄化センターから排出された下水汚泥などを原料とした汚泥肥

小学生に汚泥肥料配布

静岡
藤枝市



「家庭菜園で使ってみる」と話す児童

料を1袋(800g)ずつ配布した。

汚泥肥料は、富士宮市のアサギリが製造した。同社は、藤枝市その他、県内の処理場などから出る汚泥や牛ふんを完熟堆肥に変える。本年度、藤枝市に600袋を無償提供した。

児童は「施設を見学して水の大切さが分かった」「汚泥から肥料ができるなんて不思議」「家で使って花や野菜を育ててみたい」などと話した。